

## はじめに

岡山県では、がん（悪性新生物）による死亡者数は増加傾向にあり、昭和57年以降、死亡原因の第1位となっています。また、平成23年のがんによる死亡者数は5,400人と、全死亡者数の26.5%を占めています。

平成19年4月に施行されたがん対策基本法において、「国及び地方公共団体は、がん患者のがんの罹患、転帰その他の状況を把握し、分析するための取組を支援するために必要な施策を講ずるものとする。」と定められ、本県においても、「岡山県がん対策推進計画」により、地域がん登録を一層普及させるとともに、精度の向上を図り、データの有効活用を進めてきました。今後は、平成25年度からの「第2次岡山県がん対策推進計画」において、がん検診の精度管理や喫煙習慣について疫学研究を行い、地域がん登録のデータとあわせて公表し、がん予防に役立てることを目標に、推進することとしています。

本県では、平成4年から一部のがんを対象に「岡山県がん登録事業」を開始し、平成8年以降、登録の対象をすべてのがんに広げ、がん全体の動向把握に努めています。平成23年4月からは、県がん診療連携拠点病院である岡山大学病院に委託し、がんの罹患状況、受療状況、生存状況等の情報の収集・分析を行っています。

この報告書は、平成21（2009）年1月から12月までの罹患状況などについて集計と分析を行ったものです。また、9部位のがんについて、登録罹患患者の「5年相対生存率」のデータ（平成19年1月から12月までにがんと診断された者）も掲載しています。

本書が、がん予防、医療活動の評価や疫学研究など、関係各方面の方々によって幅広く活用され、がん対策推進の一助となれば幸いです。

最後に、本書の取りまとめに当たり、多大な御協力をいただきました岡山大学病院、岡山県医師会をはじめ、各医療機関ならびに関係各位に厚く御礼申し上げますとともに、継続的なデータの蓄積によって、本事業がさらに充実したものとなりますよう、一層の御理解と御協力をお願いいたします。

平成25年3月

岡山県保健福祉部長  
伯野 春彦